

## マーケットの動き（2026年3月2日～3月6日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。米国とイスラエルによるイラン攻撃を受けて原油価格が高騰し、エネルギー価格上昇によるインフレ懸念が強まったことから、債券は売りが優勢となりました。6日発表の2月米雇用統計が弱い内容となり、債券が買われる場面もありましたが、週を通して軟調な推移となりました。

欧州国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

## 投資環境見通し（2026年3月）

## 長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともに上昇圧力がかかりやすい

**米国：**景気は底堅く物価動向を勘案すれば、FRB（米国連邦準備制度理事会）は政策金利を当面据え置くとみられます。長期金利のさらなる低下余地は限定的で、上昇圧力がかかりやすい展開とみています。

**欧州：**景気の緩やかな回復を受けてECB（欧州中央銀行）は政策金利を当面据え置くとみられます。ユーロ高は物価下落要因とみられますが、財政拡張政策に伴って債券供給が増加するとみられることもあり、ドイツ長期金利は上昇圧力がかかりやすい展開とみています。

	3月6日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.15	0.18	▲0.06	0.06	▲0.15
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	674.17	▲1.02%	▲0.09%	8.72%	14.31%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

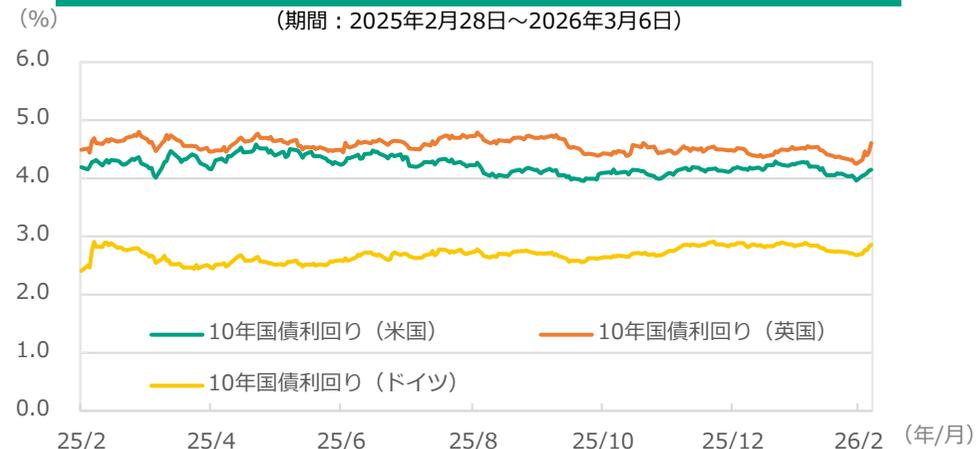
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202603\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202603_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国国債利回りの推移

（期間：2025年2月28日～2026年3月6日）



## FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2025年2月28日～2026年3月6日）



※2025年2月28日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成